

ヤマのふもとで、



長野市は、高山を山脈に囲まれた
長野盆地のふもとにある。
市街地より、数分歩けば
山々が育んだ豊かな自然が存在する。
この、生まれた自然環境を建築を通して
より身近に感じることができないのか？

本計画ではこの点から、
建築と自然環境を結びキーワードとして、
サステナビリティに注目した。

人、自然、建築、3者の繋がりを
サステナビリティという言葉を通じて、
もう一度、問い直す。

CONCEPT&FUNCTION

サステナビリティの概念を示す範囲は、人間周辺環境、空間、建築物、街区規模、都市地域規模、広域規模、地球規模と様々なレベルである。自空間における境界を明確にし、対応する必要がある。都市規模においては、後の開発特性に、建築規模において、その後に進んだ建築規模が示されている。
建築家のリチャード・ロジャースはサステナビリティに関して「都市の小さな感覚の」の中で、都市生活の機能が、半世紀メートルで成長する都市の形態を
サステイナブルな都市、コンパクトシティとして提唱した。近年この概念に対する関心は高まってきているという事実から、その有効性を疑問視する
意見もある。しかし、長野市の現状を考えると都市に「中心市街地」が存在しないという事実が都市としての魅力を失っている。この点を踏まえ、本計画では、
「サステイナブル」な建築を実現すると共に都市規模でのサステナビリティ達成に向け集合住宅およびその他、必要であると認められる施設を計画する。

